

CSR経営の考え方

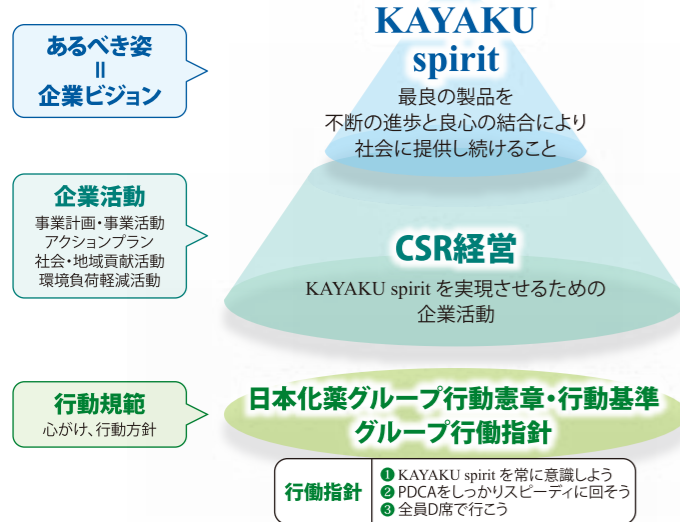
日本化薬グループは、KAYAKU spirit「最良の製品を不断の進歩と良心の結合により社会に提供し続けること」を実現することによりすべてのステークホルダーの信頼に応えるCSR経営を行ってまいります。

アクションプラン	企業ビジョン、CSRを啓発する
2014年度の目標	教育研修の継続実施 CSR関連プロジェクトの組織横断的運営 会議・社内誌などによる啓発活動の継続



KAYAKU spirit とCSR経営

KAYAKU spirit「最良の製品を不断の進歩と良心の結合により社会に提供し続けること」は、日本化薬グループの企業ビジョンです。KAYAKU spiritは50年以上前に制定された社是を元にしており、わたしたちの中に息づくCSR経営の原点となる考え方です。また、KAYAKU spiritを実現するための行動規範として、「グループ行動指針」「日本化薬グループ行動憲章・行動基準」を定めています。当社グループではKAYAKU spiritを実現させるための企業活動を行うことによって、すべてのステークホルダーの信頼に応えるCSR経営を実現してまいります。



※行動：どの字を「働く」と記載する「行動」は、日本化薬グループ独自の言葉です。常にコスト意識をもち、付加価値を生み出すための活動のことをいいます。

CSR経営実現のための取り組み

全事業をCSRの観点から判断できる体制とするため、社長を委員長とし、各事業を統括するすべての役付執行役員をメンバーとするCSR経営委員会を設定しています。また、事業戦略とCSR活動が一体となるように、中期事業計画と連動した中期CSRアクションプランを策定し、すべてのステークホルダーに公開するとともに、そのPDCA管理を実施しています。

日本化薬グループの全従業員がCSR経営の意義を理解し、一体となって目標に向かえるように、経営幹部や各事業場の責任者からのCSR意識の浸透に加え、年間数十回のCSR研修・コンプライアンス研修を行っています。また、組織横断的なCSRプロジェクトを運営し、全事業部門・各管理部門がCSR活動に参画できるような仕組みを採用しています。企業ビジョンやCSR経営を説明した冊子や携帯用カードは、グループ会社の公用語である6カ国語に翻訳し、全グループで共有するように努めるとともに、優秀な取り組みについては全グループで共有するようにしています。



企業ビジョンの揭示

コーポレート・ガバナンス

日本化薬グループは、経営の透明性の確保が重要な課題であると認識し、自律的なガバナンス体制を整備し、コンプライアンスを企業活動における最優先事項と位置付けています。

アクションプラン	コンプライアンスを啓発する
2014年度の目標	全従業員を対象にしたコンプライアンス研修の実施 コンプライアンス アンケートの実施



コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方は、日本化薬グループが社会から信頼される企業であるために、株主・投資家の皆さまへのタイムリーかつ公正な情報開示、チェック機能強化による経営の透明性の確保が重要な課題であると認識し、自律的なガバナンスを整備しています。

コーポレート・ガバナンス体制は、取締役会の合議制による意思決定と監査役制度によるコーポレート・ガバナンスが経営機能を有効に発揮できるシステムであると判断しています。

2005年8月から経営の「意思決定」・「監督機能」と「業務執行機能」の役割を明確に分離し、それぞれの機能を強化して適切な意思決定と迅速な業務執行を行っています。また、経営責任および執行責任の明確化のため取締役と執行役員の任期を1年としています。

さらに2013年6月から社外取締役を選任しています。これにより経営の透明性を高めるとともに、コーポレート・ガバナンス体制のさらなる強化を図っています。

当社は監査役会設置会社で、社外監査役3名を含む5名の体制です。監査役が取締役会等の各種社内重要会議に出席するほか、内部監査部門と情報交換を通じ、独立した立場から取締役の職務執行の監視、監督を行っています。

コンプライアンスの浸透と醸成

コンプライアンスは、日本化薬グループの企業活動における最優先課題と位置付け、2011年に「日本化薬グループ行動憲章・行動基準」を制定しました。コンプライアンスの浸透と醸成を図るため、「教育研修」や職場ごとに独自の「行動計画」を策定し、現場での具体的な活動を実施しています。年度を通じた活動結果を評価したうえで、継続的な啓発に取り組みました。

コンプライアンス推進活動は、10月を「コンプライアンス推進月間」とし「コンプライアンスアンケート」を実施しました。コンプライアンス推進に関する職場の課題を抽出したうえで、改善のコメントを含んだ報告書を各職場へフィードバックしています。職場ではこれをもとに次年度の行動計画を策定し、意識向上のためのPDCAを回しています。全体の結果は社内報「とらい」にて発表しました。

コンプライアンス教育研修は、情報セキュリティを主題とし、集合研修では、国内50回実施し2,899名が受講しました。また、集合研修に参加できない営業職向けには新たな取り組みとして、研修資料をDVDで配布し、個別研修は550名が受講しました。

海外グループ会社については、中国を中心として階層別の集合研修を延べ11回実施し、148名が受講しました。引き続き、海外のグループ会社と連携を取り、地域の文化・習慣などを考慮しながらコンプライアンス意識の浸透を図っていきます。

また、内部通報制度を制定し、「内部通報・相談窓口」を社内と外部に設置しています。引き続きコンプライアンス違反につながる事象を防止、早期に是正することに努めていきます。



COLUMN 「かやくーま」を使った KAYAKU spirit 浸透活動

グローバルに展開している日本化薬グループのすべての従業員にKAYAKU spiritを親しみやすく身近に感じてもらうために、KAYAKU spirit 浸透キャラクター「かやくーま」を作成しました。社内報で、各種CSR活動や企業ビジョン実践の模範的な活動を紹介するコーナーを設けておりますが、「かやくーま」を用いてビジュアル的にわかりやすく説明するようにしています。また、日常使用するメモやク

リアファイル、さらには会議室のデザインにも取り入れて、常に従業員の目に触れ、企業ビジョンを意識させるよう取り組んでいます。現在では、商標登録も行った、日本化薬グループのキャラクターとして、新聞広告や工場祭のノベルティ等でも活躍しています。



浸透キャラクター「かやくーま」



TOPICS 日本化薬グループのBCPへの取り組み

日本化薬のBCPマニュアルでは「目標期間内に事業を復旧する」考えのもと、各事業本部に対策本部を立上げ、重要業務の選定をし、復旧のための資源を集中配分しています。また一部の製品においては有事の際にも安定供給の実現を目指した管理体制としています。また速やかな事業復旧を目的としたBCP訓練を継続的に実施し、「絵に描いた餅」にならないような取り組みを実施しています。

2014年度は、「中国にあるグループ会社」化薬(湖州)安全器材有限公司(KSH)が被災し操業が停止した」というグローバルな想定で実施しました。このBCP訓練に社長はじめすべての役員が参加し、本社、姫路工場とKSHの3拠点の情報収集・共有をネットワーク上で連絡を取りながら生産調整・出荷対応を行い、対応策を策定することができました。訓練の結果は、依頼したコンサルタント会社から緊急時

の対応レベルが高いと評価されました。今後、日本化薬のグループ会社BCPマニュアル作成の支援を行い、グループ全体での体制強化に努めていく予定です。



※【BCP】Business Continuity Plan (事業継続計画)